

- ①学校からの下校時外出からの帰園時の業務時間の短縮を図れた
- ②利用者が保護者とのオンライン面会をする事が出来るようになった

社会福祉法人 啓明会  
天草学園（福祉型障害児入所施設）

### ①課題

- ・学校からの帰園の際に脇で図る電子体温計を使用、1回あたり1～3分所要する為、全員が入出するのに時間を要する。（特にコロナ禍に於いては、消毒等も発生する為所要時間が増加していた）



非接触型  
体温計導入

### ①成果

- 【業務の質の向上】  
体温測定のためにあてていた時間を他の記録の記入や児童等の様子の変化を確認する時間へ充当できた。
- 【量的な効率化】  
複数職員にて対応していたのが、時間帯によっては単数の職員で対応できるようになり、他の業務へスムーズに移行できた。

### ②課題

- ・文書（手紙）等でやり取りを行う場合、数日を要するし、返事が来ない場合は、不安定になったりする。
- ・電話では表情が見えず、保護者が本人がどのような様子で過ごしているのか分かりにくい。



タブレット  
導入

### ②成果

- 【業務の質の向上】  
利用者の不安定さを取り除くことが出来る様になり、精神面の支援がしやすくなった。
- 【量的な効率化】  
支援報告にて様子を伝える以外にも顔を見て話しが出来るようになり本人・保護者共に安心できる。

## 業務効率化のステップ

- ①主に下校後に体温測定を行ってから園内に入る際に体温計を消毒してから次へ、と時間がかかり、効率が悪いとの意見あり。
- ②場所等を検討し、スムーズに記録・入室が出来る様確認
- ③電子機器を触ろうとする利用者があるので防止する方法の検討（取付位置等の確認）



## 職員の声など

### 【良かった点】

1人あたり1秒前後で計測ができ、スムーズな入室が可能になった。

### 【悪かった点】

悪かった、まではいかないが、平熱が高い利用者（37℃以上）はエラー表示される。（そのまま入室は可能だが、利用者によっては見極め必要）

## 業務効率化のステップ

- ①新型コロナウイルスの為外出・外泊等が制限、週末毎に帰省していた児童が帰省できず、情緒不安定になるケースあり
- ②園内職員会議にて利用ルール等を決め（時間帯・制限時間など）保護者へ利用方法等を記載した通知を出す。
- ③職員室以外ではWi-fi環境がないので、使用が難しい。

## 職員の声など

### 【良かった点】

外出・外泊の規制の中でも、顔を見て話しができることにより、利用者も保護者も安心できるようになった。

### 【今後の課題・その他】

Wi-Fi環境の整備等が必要となるが、今後はオンライン会議等職員の研修にも積極的に利用していけるようにしていきたい。